

高齢者のごみ出し支援の方法は

地域の支え合い活動に補助制度を創設

問 高齢者の一人暮らしが増える中、ごみの排出、分別、大型ごみの運び出しなどを支援する制度の考えは。

答 自治体が行うごみ出し支援には直接支援型とコミュニティ支援型がある。本町では地域での互助の取組を重要と考え、今年度はボランティア団体等の住民組織が行う高齢者に対する生活上の困りごと支援に対し補助する制度を創設した。今後も広報紙や民生委員会などで周知を広めながらこの取組を推進していきたい。



藤岡 緑
議員



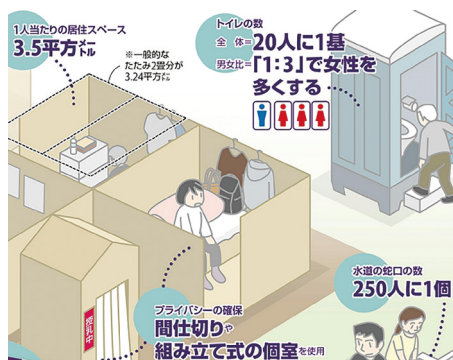
避難所運営にスフィア基準を

スフィア基準に合わせるよう努める

問 大規模災害時の避難所の設置状況が、スフィア基準からほど遠く災害関連死の原因にもなっている。町の対策は。

答 仮設トイレや近隣自治体のトイレカーの共同所有、貸出など国県の補助事業にも注視し基準に近づきたい。

※スフィア基準とは紛争や災害の被害者が尊厳ある生活を維持するための国際基準



【代表的なスフィア基準】

住民の暮らしのニーズに合わせた取組を。

農業振興への取組は

補助事業を継続し、担い手確保に努める

問 畦畔除去の効果と課題は。

答 今年度は11月末までに8件の申請。畦畔除去により農地が広くなり、作業効率向上と負担削減につながった。高低差がある農地では均平化の費用補助を求める意見もあった。

問 担い手確保の取組は。

答 過去3年の実績は新たに認定農業者15人、認定新規就農者3人。担い手数は120人と横ばい。今後はJA松山市の新規就農研修所の研修生や多様な形で農業に関わる経営体などを新たな担い手と位置付け、地域農業の維持・発展に努めていく。



渡部 恵美
議員



広くなり田植えが楽しみに

野犬対策は

捕獲実績の向上と啓発講座を検討

問 野犬の出没が不安との声があるが、対策は。

答 今年度は2頭を捕獲し、動物愛護センターへ。近隣住民との連携協力体制により、野犬の捕獲成功につながっている。今後関係団体と連携し、捕獲の向上を図る。対策としては、無責任な餌やりをなくすよう啓発するとともに、町民課主催の啓発講座を開催できるよう検討する。

野犬が4、5頭で群れをなしている。早い対策を望む。